

1学期をふりかえって



今年度より市内の公立中学校に加え、公立小学校にもスクールカウンセラーが全校配置されました。

1学期の巡回相談を振り返ると、「スクールカウンセラーの先生にも授業参観してもらいました」「スクールカウンセラーの先生とも相談し、巡回相談が必要と判断しました」というケースが増えたように感じます。

よりよい支援を目指し、校内で支え合うシステムがより深まっている様子が伝わってきました。特別支援教育担当も先生方のお手伝いができるよう、活動していきたいと考えております。今年度も残り半分、よろしくお願ひいたします。



毎日のちょっとしたひと工夫

前号では『座席・教室のレイアウト』をテーマに、教室内の環境調整の工夫について特集しました。今回は少し視点を変えて、教室内のルール作りや日々のことばがけの工夫などをご紹介します。

提案した 7 つの工夫は、取り立てて『特別な配慮を要する子どもへの支援』を意識した内容ではなく、明日からすぐに取り組めそうな工夫ばかりです。ですから、「前から実践しているよ」という先生もいらっしゃると思います。先生方が何気なくやっていることが、お子さんたちにとってどれだけ大きな意味をもっているのか、改めてお伝えできればと思います。また、『通常の学級における特別支援教育』をとらえ直すきっかけにさせていただけると嬉しいです。

いつもの ちょっとした工夫を “毎日” 続けてみる

視覚に訴える説明やことばがけ



配った紙の右上に名前書いて…
それから、紙の中央、真ん中に丸い紙を貼って…

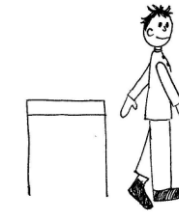


ここ。 右上に名前書いて。
次はここ。 真ん中に丸い紙を貼る。



ことばの指示だけでわかる小学校高学年・中学生になっても、
見てわかる説明やことばがけで「わかる」安心感が生まれます。

気になる行動は何かのサイン?!



席を離れる



手いたずら



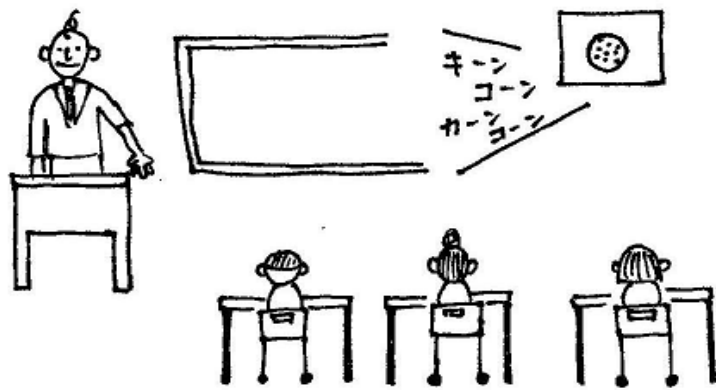
居眠りする



プリントなどを
投げる

行動には必ず意味があります。「わからない」をことばでなく、行動で
表現している場合があります。頭ごなしに叱る前に少し考えてみましょう。

チャイムで始まり、チャイムで終わる



始まりと終わりが締まると気持ちを整えることができます。一人ひとりと
目を合わせることで、児童・生徒の状態を観察することができます。

指示はひとつずつ、小出しにしてみる

〇〇やって…
××やって…
それから えっと
△△も やって…
あと□□も!



1つ目。
〇〇しましょう。
(〇〇が終わったら)
2つ目。
××しましょう



集中して聞くこと、覚えておくことが難しい児童・生徒がいます。ひとつ
ずつ区切って伝えと、聞き漏らしを防ぎ、繰り返す手間が省けます。

温かいことばがあふれる学級・学校の雰囲気



先生と子ども、子どもと子ども、思いやる気持ちがあると落ち着いた
温かい雰囲気が生まれます。まず第一歩、温かいことばから始めましょう。

学習のめあて、授業の流れが示されている



ことばだけの指示は消えやすく、忘れてしまいがちです。
見通しを持たせるという意味でも、視覚的な指示は効果的です。

アイコンタクトやサインなど非言語の合図を使う



ちょっと待って



OK! いいね!

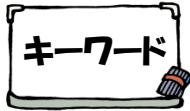


口、閉じて

何でもことばで注意をしようとする、その声も騒がしさにつながり
ます。「いつもあの子、怒られてる」と印象が強くなってしまいます。

「特別な支援」と言われると構えてしまいます。“特別な
こと”は続けることがなかなか難しいものです。しかし、
特別なことをすることが特別支援教育とは限りません。
先生がすでに行っている“ちょっとした工夫”を1回でも
多くすること、それがもう特別支援教育なのです。

どの児童・生徒も、「わかった!」「褒められた!」という
思いが喜びになり、自信や意欲につながります。問題が解けたと
いうことだけでなく、子どもたちにとって“わかる”という
体験が多い授業はそれだけで安心感が生まれ、気持ちに余裕が
生まれます。子ども一人ひとりの気持ちに余裕があると落ち
着いた雰囲気の学級になります。ちょっとした工夫でも、
毎日、毎時間続けることは大変なことです、特別なことを
始めるよりは取り組みやすいかもしれません。



「ユニバーサルデザイン」

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、文化、能力や経験などの違いに関係なく、だれもが同じように使うことができるモノを言います。身の回りにあるものだけでなく、住宅や街のつくり、交通機関など様々なモノが含まれます。例えば、駅にある通路幅の広い自動改札機は、車椅子の人だけでなく、ベビーカーやキャリーバックを持っている人も快適に利用できるよう工夫されています。

この考え方を教室に当てはめると、「配慮を要する子にとっても、そうでない子にとっても、あるとありがたい工夫」と言えます。前回、今回のほっと通信では、配慮を要する児童・生徒だけでなく、「すべての児童・生徒が過ごしやすい教室環境、わかりやすい授業」を作っていくための工夫を特集しました。とりあげた工夫は特別なものではなく、先生方が実践してきた内容だったと思います。ちょっとした工夫を意識して行うことが、すべての子どもにとって過ごしやすい環境づくりにつながるのです。

配慮を要する子どもも過ごしやすい環境の中では、落ち着いて学習に取り組むことができます。子どもが落ち着いて過ごせない時は、授業や教室環境の中に「わかりにくさ」や「過ごしにくさ」を感じているのかもしれませんが。「クラス内に落ち着かない子どもがいないかな？」と見回すところから、「ユニバーサルデザイン」は始まっているといえます。子どもたちからのサインを確認しながら、教室の「ユニバーサルデザイン」をすすめていきましょう。

巡回相談のご案内

組織編制に伴い、PHSの表示名が変わりました

市立小中学校に在籍する児童・生徒のうち、特別な支援が必要と思われるお子さんの状況を、心理士・研究主事等が授業観察や聞き取りを通して発達の特性的見立てを行います（障害の判定をするものではありません）。そして、学校内において、児童・生徒への支援をどのようにしたらよいか、先生方と一緒に考えていきます。

巡回相談の申し込みは、管理職または特別支援教育コーディネーターから電話でお願いします。巡回相談担当の職員が、児童・生徒の様子や学校の求めていることなどを聞き取りします。申し込み時に聞き取ることや、巡回相談の流れについては、学校訪問時にお渡しした資料をご覧ください。



電話受付 月～金 8:30～17:00

TEL 664-1615 または PHS[K キョウイクセンター トクベツシエン2]